

静岡県における野生鳥獣による農林産物被害の状況（令和2年度 速報値）

（経済産業部農業局、森林・林業局）

1 農林産物の被害の概要

令和2年度の野生鳥獣による農林産物被害額は約3億9百万円で、ピーク時から半減以下、アクションプラン基準年（平成28年度）の73.7%に減少した。

表1 年度別の農林産物への被害額（単位：百万円）

年度	ピーク時 H21	基準年 H28	H29	アクションプラン計画期間			
				H30	R1	R2	R3 目標
被害額	696	419	326	318	305	309	290
基準年比	(166%)	100%	77.8%	75.8%	72.7%	73.7%	69.2%

（注）農作物：農林水産省「全国の野生鳥獣による農作物の被害状況について」に基づき県集計
 特用林産物：県調べ

2 獣種別の被害額

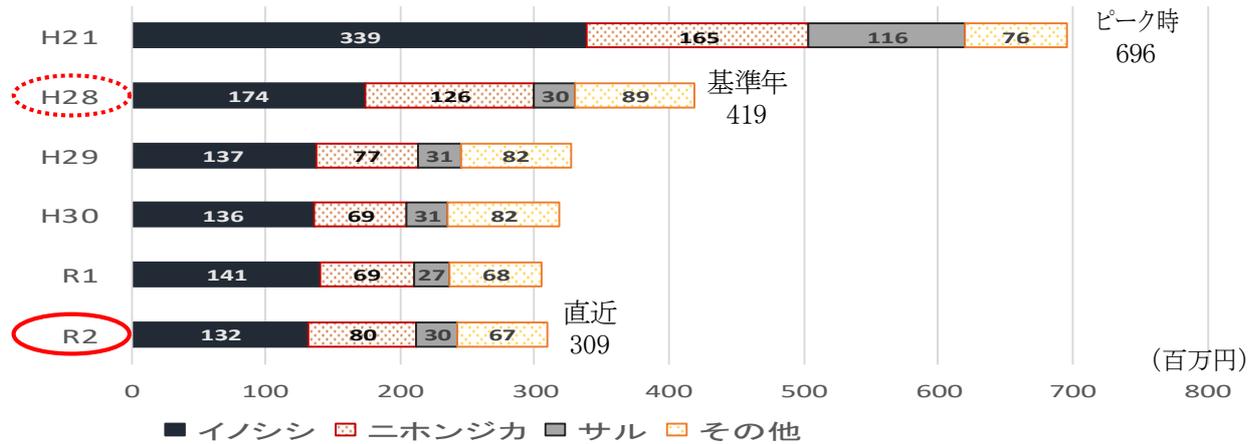
獣種別では、イノシシの被害額が最も多く、令和2年度は1億3,200万円で被害の約43%を占める。次に多いのはニホンジカによる被害で同8千万円、約26%である。

表2 鳥獣種別の被害額（単位：百万円）

年度	H21	H28	H29	H30	R1	R2	構成割合
イノシシ	339	174	137	136	141	132	42.7%
ニホンジカ	165	126	77	69	69	80	25.8%
サル	116	30	31	31	27	30	9.7%
その他	76	89	82	82	68	67	21.7%
合計	696	419	326	318	305	309	100%

※四捨五入をしているため、合計値が一致しない。

図1 鳥獣種別の被害額の推移



3 今後の取組

県全体の鳥獣被害額は、以前に比べて減少の度合いが緩やかになっている。また、獣種別の被害推移などの状況が地域によって異なることから、各市町の鳥獣被害対策実施隊等と連携し、地域特性に応じたより細やかな対策を実施する。

鳥獣被害集落アンケート調査の実施と結果の活用

(経済産業部農業局地域農業課)

1 概要

鳥獣被害の状況は、市町が毎年実施する被害状況調査により被害金額・面積を把握しているが、被害の広がりや大きさを地図に図示化して視覚的に把握し、市町間で共有することで、被害対策の更なる充実を図ることができる。

そこで、被害状況や被害の推移の確認を目的として、集落代表者（部農会長や自治会長等）に対するアンケート調査を行い、地図データを作成した。

2 令和2年度調査の概要

調査期間	令和2年10月～12月
調査方法	マーク式アンケート用紙を配布、回収 対象：全市町で選定した自治会区長や農協部農会等集落を代表する者（発送数3, 101）
回収方法	返信用封筒を同封し地域農業課に送付を依頼
回収結果	回収数2, 070（回収率67%）
業務委託先	株式会社環境アセスメントセンター（静岡市葵区）
委託期間	令和2年8月6日～令和3年2月26日

3 令和3年度の取組（調査結果の活用）

- ・ 調査結果（地図データ）を、市町が鳥獣被害対策の基礎資料として活用できるよう、県が主催する研修会に専門家を招き、鳥獣の生態や行動特性を踏まえてデータを読み解く手法を学ぶ。
- ・ データを活用し、被害対策（進入防止柵等の設置、捕獲ワナの設置等）等を戦略的に行うことで、以下の効果が期待できる。

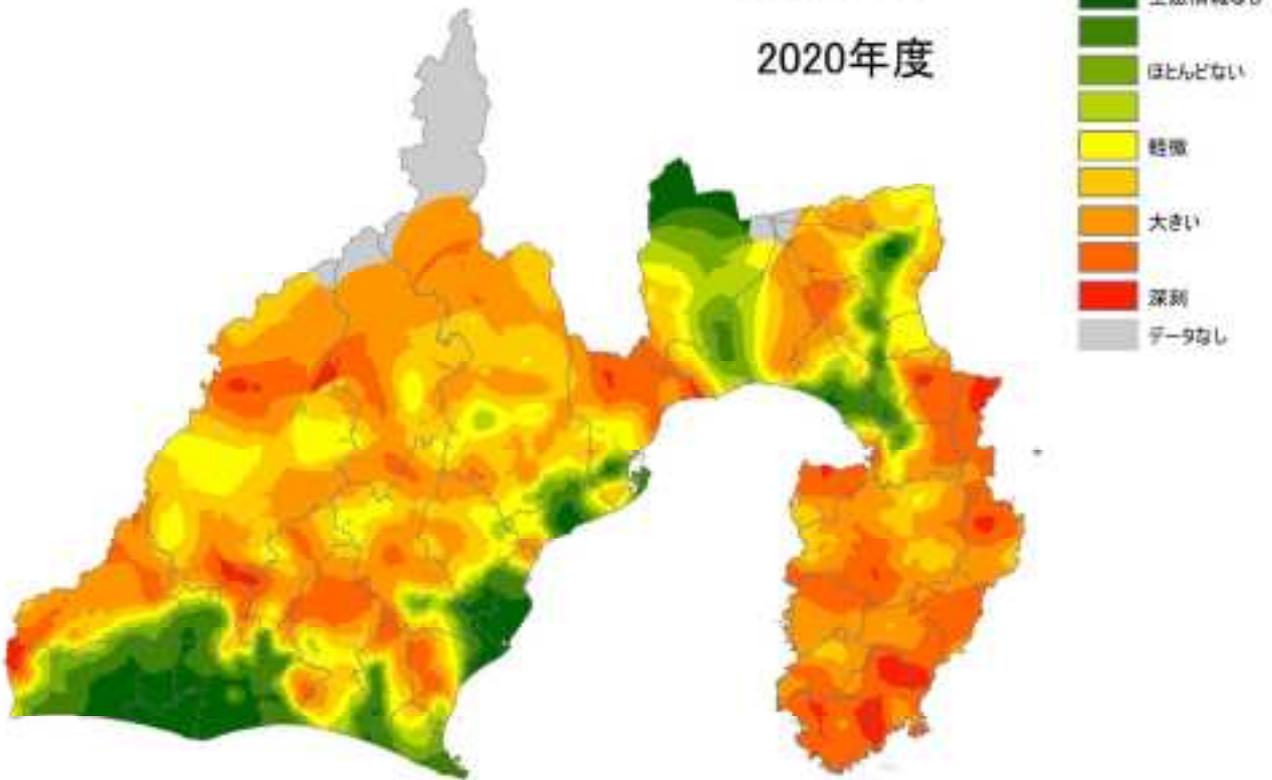
- ・ 市町境を越えた被害分布を把握することができ、早期の対策が可能となる。
- ・ 各集落の被害状況のみならず、対策状況やその効果等を明らかにすることができるので、集落毎の対策の立案や、対策が必要な集落の優先を、対策の要望把握・予算要求などがしやすくなる。
- ・ 被害に対する住民の実感を把握することが可能。
- ・ 比較的安定した指標となることから、市町が現在行っている被害金額の調査と組み合わせ、被害金額の補正などに用いることも可能。

集落代表者に対する鳥獣被害アンケート調査の結果 (獣種別被害状況)

イノシシ

農業被害

2020年度



ニホンジカ

農業被害

2020年度

